

特定外来生物

緊急対策外来種

重点対策外来種

ドブネズミ

学名 *Rattus norvegicus*
別名 ラット



アカネズミやハタネズミなどの在来の野ネズミ類に対し、ドブネズミ、クマネズミ、ハツカネズミ等の外来ネズミ類を「家ネズミ」と呼ぶことがあります。家ネズミは倉庫など人工構造物を^よ拠り所に生息していることが多く、市街地に多く出現します。ドブネズミは最も大型の家ネズミです。

ドブネズミは下水のまわりや河川、海岸、湖畔や湿地など、水辺や湿った土地に棲息し、人家から遠く離れた場所ではあまり見られません。泳ぎも得意で、しばしば水中に飛び込みます。下水管の破れた部分や、コンクリートの下の隙間、公園、駅前、繁華街などの植え込みの地中、耕作地の堆肥の中などにトンネル状の巣穴を掘ったり、建物内やマンホール内、舗装道路上の物陰などに、紙やぼろきれを集めて巣とすることもあります。

ユーラシア大陸が原産で、荷物の運搬等により現在は南極大陸以外の全世界に生息しています。一年中繁殖し、生まれた子どもは3ヶ月で成熟します。人に次いで最も増殖した哺乳類とされています。

影響

三浦半島にはこれまでアカネズミやハタネズミ、カヤネズミなどの小型の野ネズミが生息しており、植物の種や昆虫等を補食して生活していました。ドブネズミは彼らの倍以上の体格があり、雑食性ではありますが獲物を補食する能力の高い動物です。地上営巣性の鳥の卵やヒナを食べてしまう他、ウズラ程度の鳥であれば成鳥でも襲って食べてしまいます。場合によっては在来の野ネズミの子どもも食べられてしまいます。

門歯（前歯）が非常に鋭く強力で、ベニヤ板等は簡単に破り、自分が通れる穴を作ってしまう。鶏小屋に侵入して家禽を襲ったり、押し入れや壁を食い破ったりするなど、人間生活への影響も大きくなります。庭に大きな穴を掘って床下に侵入することもあります。

これまで多くの離島などで、野鳥がドブネズミやクマネズミの被害に遭っており、絶滅してしまった種もいるほどです。三浦半島の場合は同じようなハンターであるイタチが生息しているため、小動物にはある程度は捕食者に対する耐性がありますが、イタチが嫌うような劣悪な環境でも浸透していくドブネズミは、新たな脅威と言えます。



在来種

アカネズミ



在来種

ハタネズミ



地上に営巣する野鳥の巣は恰好の標的（カルガモ）



三浦半島での分布傾向

緑地では川や海沿いの土手を中心に広く生息しています。市街地でも下水道や水路、ビルの地下の湿った場所等を中心に広く生息しています。台湾リスに比べれば目立つ動物ではありませんが、生息環境が普段人目の届かない場所に集中しているため実態をつかみにくい存在です。



都市河川や下水道にも順応



駆除の方法

野生の哺乳類ですが、ドブネズミやクマネズミの駆除には許可手続き等はありません。糞や通り道などの痕跡をたよりに、市販の箱罠を設置して捕獲します。厨房や地下街などの明らかにドブネズミしかいない場所を除いて、他の動物を誤って殺さないよう、挟み込み式の罠や粘着シート、殺鼠剤の使用は控えるべきです。



誤って他の動物を殺さないよう、箱罠を使用する

注意

人に感染する病気や寄生虫を保有していることがあります。直接手を触れたりせず、屋内の糞や尿も確実に除去して消毒しましょう。死体や糞尿に触る際は使い捨てゴム手袋を利用し、終わったら服や手を消毒しましょう。生きている個体は箱罠の柵越しでも噛みついてくるので噛まれないよう注意し、絶対に触ってはいけません。

注意



家ネズミ類

ドブネズミ

外来種

最も大型で 40 センチ前後
尾と胴体は同じくらいの長さ
耳を倒しても目に届かないくらい耳が小さい
湿った地上や地下を好み、木登りはほとんどしない



ドブネズミ

クマネズミ

外来種

ドブネズミに次いで大型で 30 センチ前後
尾は胴体よりも長い
耳を倒すと目が隠れるくらい耳が大きい
乾いた地上や樹上を好む
棚の上や天井裏まで登る



クマネズミ

ハツカネズミ

外来種

小型で全長 15 センチ前後
尾と胴体は同じくらいの長さ
畑や倉庫などを好み、山の中にはほとんどいない



ハツカネズミ